⑥ 広報活動

◎work◎life◎
balance innovation

⑥-1 ニュースレターの発行

創刊号（平成21年11月発行）

第２号（平成22年３月発行）

第３号（平成22年７月発行）

第４号（平成22年10月発行）

第５号（平成23年１月発行）

山形大学男女共同参画推進室　第5号 2011

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業

Office for Gender Equality, Yamagata University

NEWS Letter

男女共同参画 国際シンポジウム「女性研究者の育成と支援」開催

11月12日(金)

女性研究者のエンパワーと活躍にむけて

講演：鷹 通子氏（大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構理事・群馬茶の水女子大学長）

大学における教職員の採用と活躍を拡大するために ～男女共同参画に向けて～

講演：キャロライン・ケイン氏（カリフォルニア大学バークレー校 分子・細胞生物学部名誉教授）

第７号（平成23年６月発行）

山形大学男女共同参画推進室　第7号 2011

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）

Office for Gender Equality, Yamagata University

NEWS Letter

吉村美栄子山形県知事による特別講義

～基盤教育「ウーマン・オブ・ヤマガタ」公開教養セミナー～

第3回男女共同参画フェスタ開催中

6月21日(火)～7月19日(水)

男女共同参画フェスタ 6月21日～7月19日

第６号（平成23年３月発行）

山形大学男女共同参画推進室　第6号 2011

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業

Office for Gender Equality, Yamagata University

NEWS Letter

子育て期の女性研究者支援 利用者からの声 ～研究継続支援員制度～

「1歳になる子を育児中です。」

「山形県の農業の推進に貢献できると確信しています。」

第８号（平成23年10月発行）

山形大学男女共同参画推進室　第8号 2011

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）

Office for Gender Equality, Yamagata University

NEWS Letter

理学部OGによる女性研究者裾野拡大セミナーの開催

7月15日

「博士・ポスドクのためのキャリアセミナー」を工学部で開催

7月6日

第９号（平成24年１月発行）

山形大学男女共同参画推進室　第9号 2012

文部科学省科学技術人材育成費補助金
女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）

Office for Gender Equality, Yamagata University

NEWS Letter

男女共同参画シンポジウム 11月11日
「女性研究者の活躍と裾野拡大～大学連携を通して～」を開催

「第3次男女共同参画基本計画」（平成22年12月）や「第4期科学技術基本計画」（平成23年8月）が閣議決定され、「科学技術・学術分野における男女共同参画」も次の段階へと進もうとしています。

本シンポジウムでは、県内の大学運営関係者、高等学校関係者、行政や地域の方々など約100名の参加で、教育・研究分野における男女共同参画に向けた連携・協働による各機関の発展と若い世代の育成について、熱の入った話し合いが行われました。

◎基調講演「科学技術・学術分野における男女共同参画の推進～第3次男女共同参画基本計画の策定を踏まえて～」

笹井弘之氏（文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長）

笹井弘之氏から「女性にとっても男性にとっても生きやすい社会が男女共同参画社会。それぞれの高等教育機関が置かれている状況は様々で、男女共同参画の取組も色々な方法がある。他機関の情報を得て、やれるところから取り組んでいただきたい。経費の面など難しい点もあるが、今回のように「大学コンソーシアムやまがた」というような組織を活用するなどそれぞれの機関で叡知を生かして取組を進めていただきたい」というお話がありました。

◎第1部パネルディスカッション「女性研究者の活躍に向けた大学連携」

県内5高等教育機関の運営関係者から、各機関の現状や今後の方向についての発表の後、ディスカッションが行われました。

会場からも「山形大学の取組をコンソーシアムの各加盟校と連携して行きたいという話があったが、まず優先的にやるべきことは何か」という質問があり、「他大学の情報がなかなか入らない。当大学は女性教員割合は高いが、意識が進んでいるかというとそうでもない。大学コンソーシアム等でイベントを開催し、各大学から参加できるようにしたい」「高校生をエンパワーメントするロールモデルを各大学から出していただき高校生に話をする機会を作っていってはどうか」等の意見が出されました。

最後に、今後一層、男女共同参画を推進していくために、交流と連携を深めていくことを誓って、伊藤眞知子氏から「男女共同参画に向けた大学連携・山形宣言」が提案され、満場一致で採択されました。

左から　コーディネーター　伊藤眞知子氏（東北公益文科大学教授）
コメンテーター　笹井　弘之氏（文部科学省男女共同参画学習課長）
パネリスト　遠藤　恵子氏（山形県立米沢女子短期大学長）
大河内邦子氏（鶴岡工業高等専門学校教授・図書館長）
工藤　教和氏（東北公益文科大学副学長）
菅原　京子氏（山形県立保健医療大学看護学科長）
北野　通世氏（山形大学男女共同参画推進室長）

男女共同参画に向けた大学連携・山形宣言

本日のシンポジウム参加者は、交流と連携を深め、男女共同参画を推進していくことをここに宣言します。

1　男女共に学びやすく働きやすい環境づくりをめざして、一層取り組んでいきます。
2　男女共同参画の推進のため、連携とネットワークづくりを進めていきます。

2011年11月11日　男女共同参画シンポジウム参加者一同

◎第2部パネルトーク
「女子高校生☆夢に向かって！～女性研究者が疑問にお答えします～」

高校生とゲストとのトーク

石島智子氏（東京大学特任助教）から「私の仕事・研究・家庭」を、はやのん氏（理系漫画家）から「漫画で理系女性を応援する」を、渡辺絵理子氏（山形大学准教授）から「ラ・フランス、サクランボから化粧品を開発」をテーマに講演が行われた後、山形県立山形東高等学校・山形西高等学校生4人とトークが行われました。高校生から、「どういう果物の性質が化粧品に向くのですか」「自分がしたい研究と共同研究の内容が違うときはどうするのですか」「農学部を目指していますが理数教科が苦手です。大学の授業についていけますか」等の質問が出されました。「理系・文系や得意・不得意にこだわらず、大学に入ったらそこがスタートライン。好きになれば勉強しますよ」というエールが送られました。

「男女共同参画に向けた大学連携・山形宣言」を採択（2011年11月11日）のニュース

メールマガジンの発信

山形大学男女共同参画推進室から「ぱれっと通信」を毎月１回、電子メールで学内外の男女登録者約100人に発信している。女性研究者お得情報や施設の利用案内、講座やセミナー・講演会の案内など男女共同参画に関する最新情報を発信している。第15号から「ワークライフバランス」をテーマにリレーエッセイが開始された。

創刊号（平成22年２月１日発信）

☆★☆★☆山大男女共同参画推進　ぱれっと通信　創刊号☆★☆★☆　（H22.2.1 発行）

巡回相談の中で許可を頂いた方に、今月より山大男女参画推進室より、
メールマガジンを送らせていただきます。
女性研究者向けの情報を送りますので、どうぞご愛読ください　＼(＾▽＾)／

巡回相談業務も皆様のご協力のおかげで、順調に進めることができました。
お忙しい中お時間を頂き、本当にありがとうございました。
皆様方から頂いたご意見やご要望を、今後の女性研究者支援に役立たせていただきます。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆お知らせ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

山形大学　男女共同参画シンポジウム　in 2010
見つけよう！あなたのワークライフバランス

○日時：平成２月 12 日（金）　13:30～17:00
○場所：山形大学小白川キャンパス 127 教室（教養教育棟１号館２階）
＊医・工・農はテレビ同時配信します。

○内容：基調講演　「　ワークライフバランスを支える環境と覚悟　」
～女性研究者支援から見えてきたこと～
○講師：有賀早苗氏（北海道大学・副理事・女性研究者支援室長）
○パネルディスカッション・パネリスト
鏡　京子氏　（山形県　子ども政策監）
村上　浩氏　（荘内銀行　人事部副部長）
北野　通世氏　（山形大学理事　男女共同参画推進室長）
加々島　慎一氏　（山形大学理学部　准教授）
佐々木　由佳氏　（山形大学農学部　助教）
○申し込み方法
氏名・住所・電話番号をご記入の上、お申し込み下さい。（当日参加も受け付けます）
託児あり　無料（お子様の年齢と性別をご記入の上、事前にお申し込み下さい）
メール：jimu@aisoho.jp　FAX　023－673－0703
詳細については
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/danjo-event.html をご覧下さい。
ぜひご来聴下さい。お待ちしております。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆アンケート速報と女性教員の数◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

○2009 年 11 月に実施しました「男女共同参画に係るアンケート」について、
2471 名の方に配布し、1329 名の有効回答（回収率 53.8%）を得ることができました。

第17号（平成23年８月１日発信）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆　ワークライフバランス事始め　第３弾　◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
「Today is Gift」
山形大学医学部看護学科　佐藤和佳子

この３年ぐらいを境に、私のワークライフバランスは、ずいぶんと変化したと思う。
最近の日常を振り返ると、ガーデニングというおしゃれな雰囲気とはほど遠いけれど、庭に咲く花々を時々楽しむようになった。（写真）
最も私の生活に変化を与えたのは、昨年の春、ミッフィーと名付けた猫と同居することになったことだと思う。毎日のケアに合わせて、自分自身の生活もいつのまにか規則的になった。また、世の中には猫好きな人がたくさんいて、もともと好きな兄一家も含め、いろいろな人と猫談義をする時間が増えた。出張で留守の時は、義姉に世話をしてもらい、携帯メールで様子を知らせてもらうと、早く自宅に帰りたくなり、時々自分で苦笑する。
また、同級生の子女が大学を卒業する時期にもなったせいか、若い頃の友人との旧交が復活し、時々は出かけたりする時間も作れるようになった。高校の時以来だったピアノを始めたり、短歌を詠んでみたりと、どれもこれも中途半端ではあるけれど、仕事も趣味も、自分のペースで、この頃淡々と過ごす術を知り始めている。
実は、３年前思いがけず病気療養を致し、期せずして神様から与えられた休日を過ごすことになった。初めの頃、焦燥感にずいぶん苛まれた。けれど、その体験の中で、一日一日を丁寧に、家族・友人・同僚・学生、その日に出会う人々との交流の一場面一場面を大切に過ごすことが、どんなにかけがえのないことかを知った。
ワークライフバランスは、時間経過のもたらす効用がわかってくると、仕事への焦りや葛藤からも解放され、自分なりのバランスと生活リズムが見出しやすくなるように思う。
私の場合は、失敗から徐々に自分なりのワークライフバランスを見い出し、それもまた人生と思うけれど、一番は、やはり、健康・生活・仕事のバランスがとれていて、一日一日を大切に過ごしていかれると良いと思う。
３年まえ、友人から送られた言葉があるので、紹介したい。
Yesterday is history.
Tomorrow is mystery.
Today is Gift.
（出典は、省略。）

（今年、初めて咲いたひなげしの花です。）

第18号（平成23年９月１日発信）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆　ワークライフバランス事始め　第４弾　◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
山形大学の教職員によるリレー・エッセイ。今回は医学部の　松田　勉　先生です。

「おやじの休日」

ワークライフバランスを向上するために、休日は仕事を忘れてどれだけ楽しめるかが重要だと思います。このことは、ワークライフバランスが崩壊していた前職の厚生労働省勤務時代に痛感しました。特に自慢の話は無いですが、私の休日の過ごし方を紹介します。なお、自分が好きにできるのは理解ある家族のお陰と常々感謝しています。
①　スーパー・デパ地下・産直売店・アンテナショップ
我が家では、食べることが好きな私と、食べ物にあまり執着しない妻とで自然に役割分担が出来、具体的には休日の買物と料理は私の担当で、休日の午前中は喜々としていろいろなスーパー等の食品売り場を徘徊しています。買い物かごを持つのは、以前は多少恥ずかしい気もしましたが、最近は食品売り場に多くの中年男性を見かけるようになりました。また、出張先で少しでも時間があるとスーパーやデパ地下（東京では地方のアンテナショップ）に足を運び、食べたこともない地方・海外の食材・食品を土産として購入、家族に無理強いし一緒に未知の味を楽しんでいます。
②　家庭菜園
どうしても食べる話に関係しますが、千葉県の自宅の近くに 20 坪の畑を借りています。現在、山形に単身赴任ということもあり、できるだけ手間をかけずに収穫できないものかと試行錯誤の繰り返しですが、野菜も正直、手抜きでは思うように育ってくれません。それでも、千葉に帰った時はせっせと畑に通い、土の匂い、野菜の緑そして不格好ながらも収穫できた野菜の味に癒されています。
③　充電クラブ
以前勤務していた環境庁を通じて知り合った気の合う面々（オヤジだけ）とは、ここ 20 年以上。“充電クラブ”と称し年数回、登山、温泉、東京湾でのたこ釣り、会津地方のそば祭り等で心の充電、特に、この５，６年は、東日本の 100 名山を中心に約 30 の山に登りました。私たちの登山は、決して無理せず、花や紅葉を愛で、下山後の温泉で地元の美味を肴に反省会を基本としています。なお、今年に限って言えば、仲間の複数が福島県在住で、震災や原発事故の対応で忙しく会うこともままならない状況でした。しかしながら、良い仕事を継続するためには心の充電も大事なこと、近々集まって、仲間の絆を再確認したいと考えています。

←松田先生に送って頂いた写真

第22号（平成24年１月17日発信）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆リレーエッセイ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
「イクメンパパのワークライフバランス」
財務部　内藤修広

私のワークライフバランスを語る前に、まずは私が育児休業を取得した経緯ついてご紹介したいと思います。
2010 年９月に次女が誕生した際に、私は年次有給休暇と育児休業などを合わせて約３週間の休みを頂きました。山形大学では、男性が育児休業を取得するのは初めてのことでした。私が育休を取得したのは、次のような理由からです。
① 無理をしない（負担軽減）
産後の妻をサポートするために、床上げまでの約３週間は、料理などの家事すべてを引き受けました。同時に、長女の保育園への送り迎えなども必要でしたので、無理をしないため。
② 育児休業のハードルを下げる
仕事と育児を両立したという経験談は、これから子育てをする男性への励みになりますが、同時に育休を取得しにくくするという要因にもなります。無理をして頑張るのではなく、無理をせずに気兼ねなく育休を取得できる環境が必要と考えたから。
③ ロールモデルになる
育休を取得し、子育てや家事を積極的に行うことで、ロールモデル（いわゆるイクメン）になる。
育休から復帰した現在でも、子育てや家事（掃除、洗濯、ときどき料理）に励んでいますが、並行して山形大学社会文化システム研究科で勉強しており、私の場合は、仕事と生活と学業の３要素でバランスを取っている状況です（来年は修論のため、学業が・・・(汗)。夕方から授業があるので、仕事はあまり残業ができず、集中して行う必要があります。授業が終わって帰宅したら、食事をとって子どもをお風呂に入れ、子どもを寝かせるために一緒に布団に入ります。食後の満腹感とお風呂上がりで体が火照った状態のまま布団に入るので、睡魔に襲われて子どもと一緒に寝てしまいます。早起きすれば良いのですが、子どもと起きる時間がそれほど変わりません（9 時間睡眠！）。寝過ぎと言われようが、「アインシュタインは 10 時間睡眠だからまだまだ大丈夫」と自分に言い聞かせています。
私の理想とするワークライフバランスは、仕事は定時で終了して帰宅し、子どもと遊んだり趣味を楽しんだりしてリフレッシュ。翌日はスッキリした頭で集中して仕事ができるという、ワークとライフがともに充実（スパイラルアップ）するというイメージです。理想とはかけ離れた生活とは思いつつ、今日もまた仕事に勉強に家事にいそしんでいます。
（そしてまた９時間睡眠・・・）

（育児中の様子）

第23号（平成24年２月15日発行）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆リレーエッセイ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「ワークライフアンバランス！？　仕事と家事と育児と・・・」

医学部附属図書館　佐藤亜紀

昨年６月に育児休業から職場に復帰して早７か月、私のワークライフバランスは・・・
今のところまだアンバランスなのかもしれません。

まず私の理想とするワークライフバランスは簡単に言うと以下の３つです。

①仕事はほぼ定時に終わる
②こどもたちに美味しいご飯をつくる&9時に寝かせる
③自分の時間を持つ（勉強会参加・趣味にあてる）

仕事に復帰してしばらくは①～③までだいたい１日２４時間の中に収まっていました（③はほとんどないこともありましたが）。しかし、その余裕のある仕事ぶりがたたったのか最近は①～②は激減し、③もたまに、となってしまっています。

その原因の一つが仕事。私の主な仕事は図書館に新しい本（雑誌も）を入れることです。
具体的には本を注文し、お金を払い、図書館のデータベースに情報を追加し、貸出・管理のためのバーコードシールと図書ラベルを貼る。今は年度末に近づきつつあり、学生向けの図書も先生方からの注文も大詰めでなかなか定時に帰ることができなくなりました。

また、システムエンジニアをしている夫の仕事が忙しくなってきたことも追い打ちをかけています。

仕事は大変だけど楽しい！　もっとこどもに時間をかけたい！　自分もこどもも美味しいご飯が食べたい！
趣味の時間もほしい！　という欲張りな私。かつ両親義父母が遠い私たち夫婦は、家事と育児を手伝ってくれる人を探そうと検討中です。

ここまで書くと、相当悲惨な毎日を送っているようにも思われますが、日々楽しくないわけではありません。なんといっても、こどもの成長。これを身近で感じられるのは幸せなことです。もうすぐ５歳になる長女はびっくりするくらい私の言葉を理解し使いこなすし、１歳半の次女は佇まいだけでもうノックアウトされるくらいに可愛い。

さて、話をワークライフバランスに戻します。①②は来年度になると、仕事がリセットされてまた余裕ができる（予定）、
そして効率良く仕事をすることを心がける（ライフハック）。
③は自分の趣味にこどもを巻き込む、これで解決できればと考えています。

ちなみに趣味は勉強会・ダンス・野菜作りなど。勉強会は主に東北地区の大学図書館、公共図書館、
その他で働く人とのネットワークで、2009年の立ち上げから参加して三年目。毎月集まって情報交換や勉強会をしています。ここでこどもが参加できるような内容の回を企画したいです。
そして昨年初めた野菜作りと親子でダンスに通いたいと思っています。
私の今年の目標は「仕事を溜めない」です。
ワークとライフをバランスよくするために、仕事も家事も育児も軽やかにこなす年にしたいです。

ホームページ

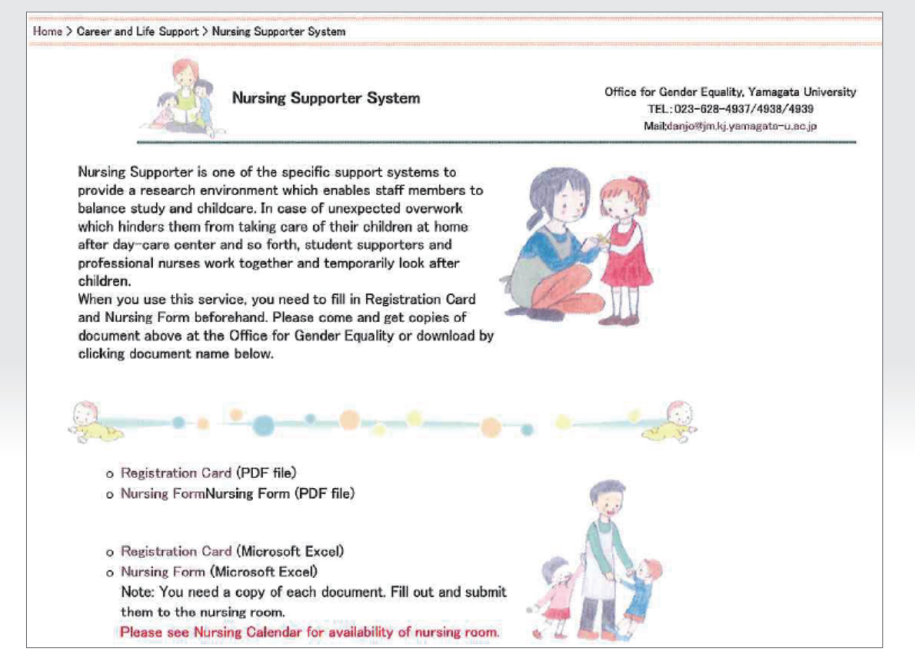
平成22年５月に、男女共同参画推進室のホームページの大幅なリニューアルを行い、より利用しやすくした。また、８月には山形大学のトップページに男女共同参画推進室のバナーが設置された。これは、公募要領に「男女共同参画を積極的に推進しています」という文言を記載している理学部からの問い合わせがあったことによる。応募者がすぐ男女共同参画室のページに入れるようになっていた方がよいということからである。

10月には、国際公募や留学生招致を念頭に、英語版のホームページを開始した。

山形県を象徴する紅花をモチーフに親しみやすく明るい配色にした。

常に新着情報をアップし、スピーディーな情報発信に努めている。

英語版の託児サポーター制度紹介ページ。イラストは学生の作品である。



リーフレット

●男女共同参画基本計画

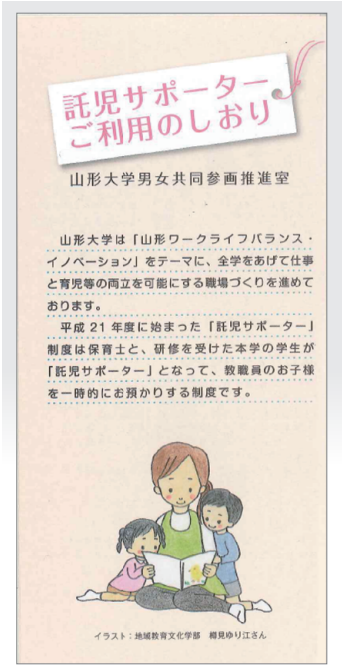
ねらい：10年計画の周知を図るため

対象者：全教職員他

●託児サポーターご利用のしおり

ねらい：利用時間の改正に伴い、利用促進のため

対象者：教職員・学生他



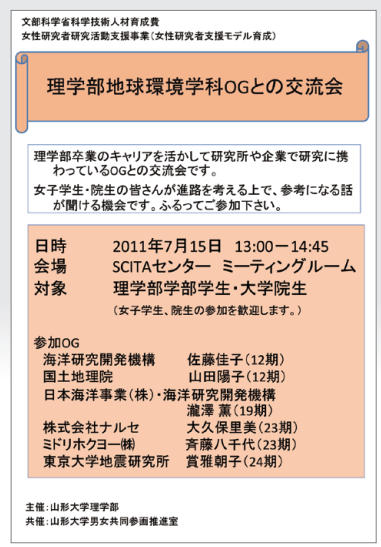
●「山形大学教職員のための出産・子育て・介護に関する制度」

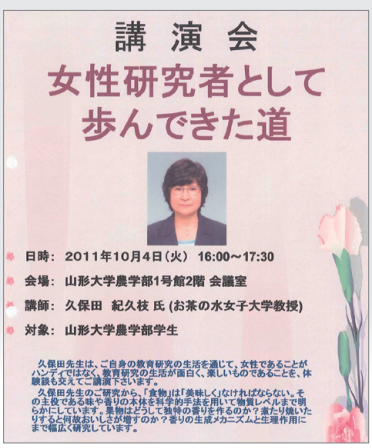
ねらい：山形大学の職員就業規則から、出産・子育て・介護を支援する制度の一部をわかりやすく紹介し、利用に向けて理解を広めるため。

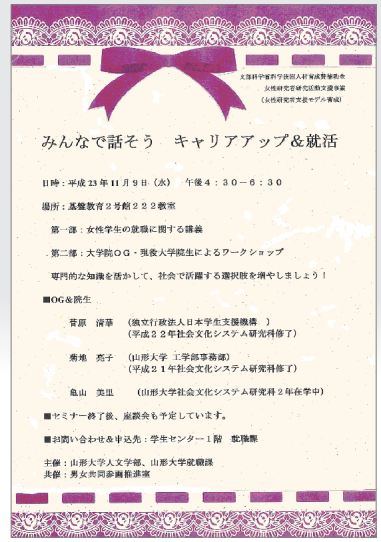
対象者：全教職員他。必要に応じ随時、配付している。

ポスター（平成23年度）

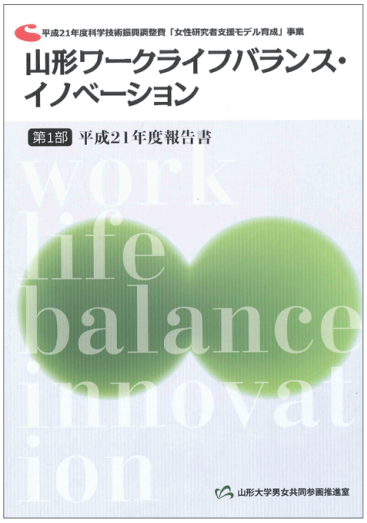
●主に学生対象

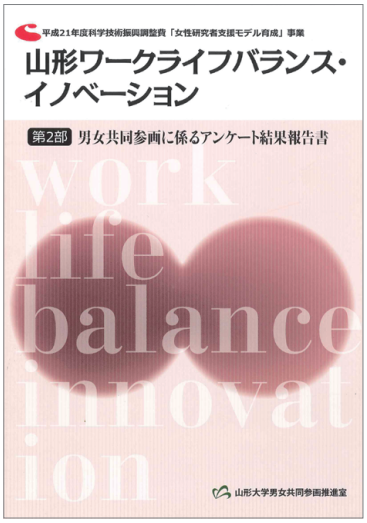




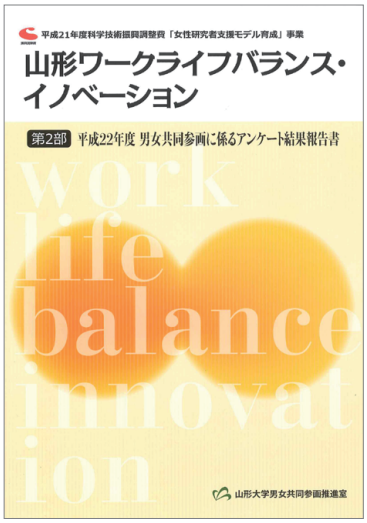


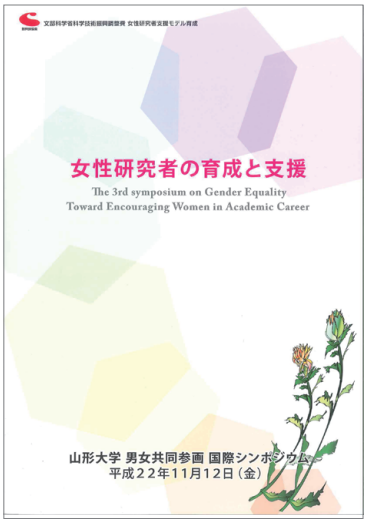
報告書

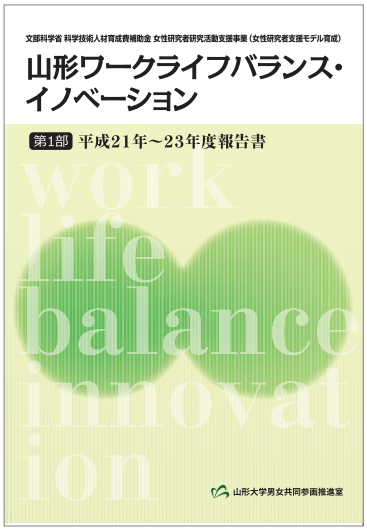

平成21年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業
山形ワークライフバランス・イノベーション
第1部 平成21年度報告書
work life balance innovation
山形大学男女共同参画推進室

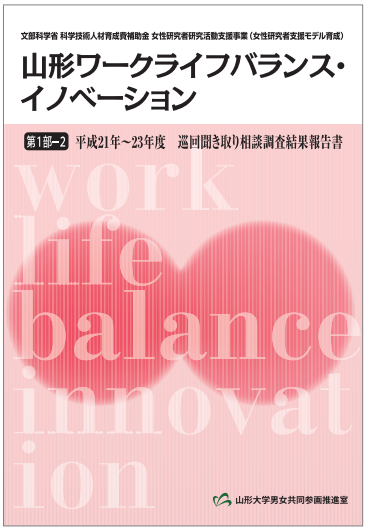

平成21年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業
山形ワークライフバランス・イノベーション
第2部 男女共同参画に係るアンケート結果報告書
work life balance innovation
山形大学男女共同参画推進室

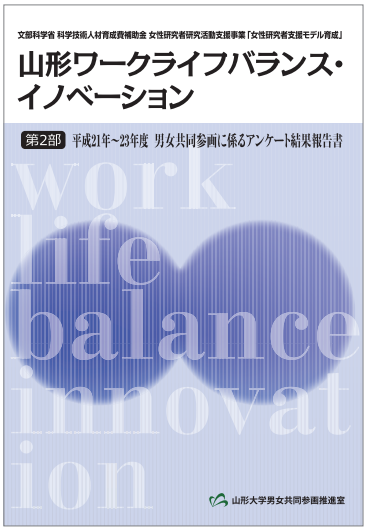
平成21年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業
山形ワークライフバランス・イノベーション
第1部 平成22年度報告書
work life balance innovation
山形大学男女共同参画推進室


平成21年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業
山形ワークライフバランス・イノベーション
第2部 平成22年度 男女共同参画に係るアンケート結果報告書
work life balance innovation
山形大学男女共同参画推進室


女性研究者の育成と支援
The 3rd symposium on Gender Equality
Toward Encouraging Women in Academic Career
山形大学 男女共同参画 国際シンポジウム
平成22年11月12日（金）


文部科学省 科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）
山形ワークライフバランス・イノベーション
第1部 平成21年～23年度報告書
work life balance innovation
山形大学男女共同参画推進室


文部科学省 科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）
山形ワークライフバランス・イノベーション
第1部-2 平成21年～23年度 巡回聞き取り相談調査結果報告書
work life balance innovation
山形大学男女共同参画推進室


文部科学省 科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業「女性研究者支援モデル育成」
山形ワークライフバランス・イノベーション
第2部 平成21年～23年度 男女共同参画に係るアンケート結果報告書
work life balance innovation
山形大学男女共同参画推進室